

新潟県に災害をもたらした主な気象事例

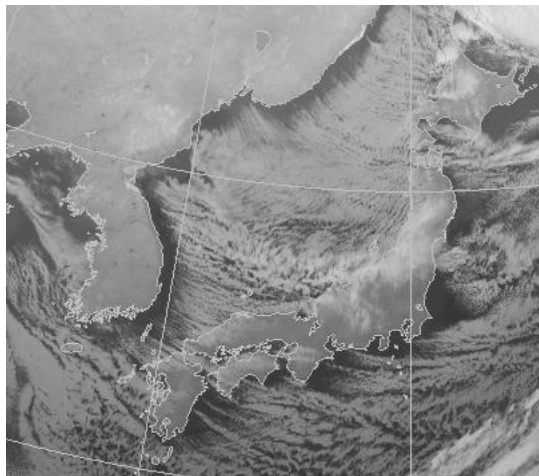
令和4（2022）年12月18日から19日にかけての大雪

下越と中越で記録的な大雪 各地で車の立ち往生等の交通障害が発生

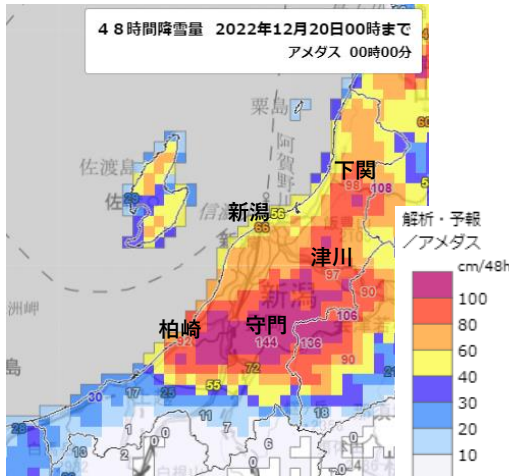
【概要】

令和4（2022）年12月18日から19日にかけて強い冬型の気圧配置となり、新潟県の上空約5,500メートルには氷点下30度以下のこの時期としては強い寒気が流れ込んだ。19日未明から夕方にかけて、JPCZ（日本海寒帯気団収束帯）に伴う発達した雪雲が流れ込み続けた下越と中越を中心に、記録的な大雪となった。魚沼市守門では、19日7時までの6時間に45センチの顕著な降雪を観測し「顕著な大雪に関する新潟県気象情報」を発表した。また、日降雪量が阿賀町津川で84センチ（18日）、柏崎で72センチ（19日）、関川村下関で56センチ（18日）となり、それぞれ観測史上1位の記録を更新したほか、新潟では、20日2時に積雪68センチを観測し、12月の月最深積雪の大きい方から2位となった。

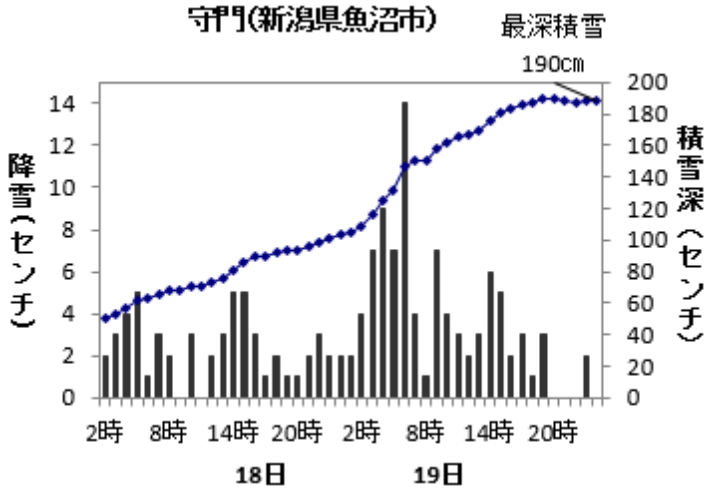
この大雪により、高速道路の通行止め、長岡市や柏崎市を中心とした車両の立ち往生、佐渡市等での倒木による停電、鉄道の運休・遅延などの交通障害が発生したほか、除雪中の事故や路面凍結による転倒などの人的被害が発生した。（被害状況は新潟県資料や各機関の公表資料を参考に新潟地方気象台にて記述）



気象衛星赤外画像（12月19日3時）



12月20日0時の前48時間降雪量
（地図：地理院タイル）



魚沼市守門の1時間ごとの降雪（12月18日～19日）